

《博士前期課程》

III 専門支持科目

フィジカルアセスメント	25
臨床薬理学	27
看護学研究法特論	28
看護学理論特論	30
看護政策論	31
看護教育学	33
看護学倫理	34
コンサルテーション論	35
健康政策・関係法特論	36
原著講読特論	37
生体機能看護学特論	38
臨床動作解析学特論	39
発達障がい理学療法学特論	40
理学療法臨床推論特論	41
精神障がい作業療法学特論	42
身体障がい作業療法学特論	43
高齢期作業療法学特論	44
生活援助工学特論	45
地域リハビリテーション学特論	46

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生			
フィジカルアセスメント (専門支持科目)	教授・沼澤さとみ 教授・菊池 昭夫 名誉教授・青柳 優 名誉教授・八巻 通安 非常勤・川村 一郎 鈴木 武文 今田 恒夫 石川 朗 阪西 通夫	博士前期課程 1年	後期	2	30	CNS 必修	否			
授業概要	専門看護師としての高度実践看護に必要なフィジカルアセスメントについて学習する									
一般目標	複雑な健康問題を抱える対象の身体状況を診査し、臨床看護判断するために必要な知識と技術を修得する									
到達目標	1. フィジカルアセスメントの基本的な技法を修得する 2. 客観的な身体情報を得るためのフィジカルイクザミネーションを修得する 3. 緊急性や必要なケアについて判断するための、身体の各系統のアセスメントについて理解する									
成績評価方針 評価方法 および基準	授業への取り組み（討議内容や理解度など）：70%、課題レポート：30%									
授業形式	対面授業（一部を遠隔授業にすることもあります）									
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当					
1	集中講義 (後日連絡)	フィジカルアセスメント総論	(1) 病歴聴取 (2) 基本技法（視診、触診、打診、聴診） (3) バイタルサインズ	各授業回の学習課題に応じて、以下の学習をしてください。 <ul style="list-style-type: none">学習課題に関して、現在臨床で、より的確なアセスメントが必要、あるいはアセスメントが困難なことなどを考えてまとめておく。学習課題に関して紹介する、あるいは学生自身で探した文献や図書を読む。学習課題についてプレゼンテーションや討議をするときは資料を作成する。学習成果としてのレポートを作成する。	沼澤					
2										
3		頭頸部・感覚器 (講義および演習)	(1) 頭部・顔面の診察、眼・耳・鼻の診察、唾液腺・口腔・咽頭の診察、頭頸部リンパ節の触診 (2) 視覚、聴覚、嗅覚、鼻腔、咽喉頭のアセスメント		青柳					
4										
5		嚥下のアセスメント (講義・演習)	摂食・嚥下機能のアセスメント		青柳					
6										
7		脳神経 (講義および演習)	(1) 脳神経系のアセスメント (2) 体位と姿勢、精神状態、四肢の視診、筋委縮、筋トーネス、知覚検査、表在反射、深部反射、クローネスの診察法等		菊池					
8										
9		呼吸・循環器系 (講義および演習)	(1) 胸郭・肺呼吸器系のアセスメント 視・触・打診、呼吸音の聴取 (2) 呼吸器と循環器の関係(問診、視診) (3) 循環器系のアセスメント 四肢・頸部の視診・触診・聴診、胸部視診・触診・打診、心音聴取、検査データ		八巻					
10										
11		消化器系 (講義・演習) 胸部(乳房)			川村 鈴木					
12										
13		腎・泌尿器系 (講義・演習)	腎・泌尿器系のアセスメント 問診、視診、触診、打診		今田					
14										
15		骨・関節・筋系 (講義・演習)	骨・関節・筋のアセスメント 問診・視診・触診・打診 関節可動域測定、徒手筋力テスト		石川					
		女性生殖器 (講義・演習)	産婦人科診察							
		事例を用いたフィジカルアセスメント	事例を用いて対象のフィジカルアセスメントと健康問題についての検討				沼澤			

教科書 参考図書	参考図書（以下のうちから、またはフィジカルアセスメントに関する図書から自分で選んで1冊を持っていきことを勧めます） <ul style="list-style-type: none"> ・藤崎郁：フィジカルアセスメント完全ガイド第3版，学研，2017. ・山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック第2版，医学書院，2011. ・古谷伸之編：診察と手技がみえる Vol.1 第2版，メディックメディア，2007 ・福井次矢，井部俊子監修：ベイツ診察法第2版，メディカル・サイエンス・インターナショナル，2015.
履修上の注意	
学生へのメッセージ	看護実践するうえで、的確なアセスメントが必要な状況、あるいはアセスメントが困難な状況などを考えて、授業に臨んでください。
e-mail・研究室 (連絡先)	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生					
臨床薬理学 (専門支持科目)	准教授・蓬田 伸一 教 授・遠藤 和子	博士前期課程 1年	通年	2	30	CNS 必修	否					
授業概要	薬物動態と相互作用を理解し、複雑な健康問題を持つ対象の回復促進に向けて、薬剤の選択と管理、緊急救急処置、症状や生活の調整、モニタリング、患者の服薬管理を適切に実施するために必要な知識と技術を習得する。											
一般目標	各専門分野で使用される薬物の作用や薬物動態・薬物相互作用を理解し、患者のモニタリング、症状と服薬管理、服薬指導を学び、看護実践的な視点から知識と技術を習得する。											
到達目標	1. 代表的な薬物の相互作用、薬物動態を述べることができる。 2. 各専門分野で使用されている薬剤の作用機序や副作用・有害作用などに関する知識を説明できる。 3. 各専門分野での特徴的な薬剤における患者のモニタリング、症状調整、服薬管理、服薬指導について具体的に挙げることができる。 4. 薬剤に関する今日的な課題について、自分の見解を述べることができる。											
成績評価方針 評価方法 および基準	授業参加態度 80%、課題レポート：20%											
授業形式	対面授業を基本とするが、状況により遠隔授業（配信方式）で実施する											
授業計画												
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習 など	担当							
1	毎週 火曜日 6限目	臨床薬理学に関する基本的理解	臨床薬理学に必要な基礎知識、看護師に必要な薬機法の知識	シラバスの内 容を元に、教 科書等を用い て予習するこ とが望ましい が、理解が困 難な場合は復 習に重点を置 いてほしい。	蓬田							
2		薬物動態と相互作用	薬理作用、用量と反応、受容体と薬理作用、薬物作用点、薬物の吸収と代謝・分布・排泄、投薬経路による薬効発現の変化、年齢・性別に応じた薬物療法									
3		呼吸・循環器疾患の治療薬と管理	循環器系の代表的な薬物（心不全、抗高血圧、抗不整脈薬）の作用、呼吸器系の代表的な薬物（鎮咳剤、気管支拡張薬など）の作用									
4		消化器疾患の治療薬と管理	消化・吸収・代謝、潰瘍治療薬、制吐剤などの作用									
5		中枢神経系疾患の治療薬と管理	神経変性疾患（パーキンソン病やアルツハイマー病）治療薬の作用、鎮痛薬、催眠薬、麻酔薬の作用									
6		感染症に用いる薬剤と管理	抗菌薬の種類と薬剤の選択、体内動態・薬効									
7		内分泌・代謝系疾患の治療薬と管理	脂質代謝・糖代謝に関連する治療薬の作用 慢性疾患の管理に必要な治療薬									
8		母性看護学分野に用いる治療薬と管理	女性の性と生殖における薬物の影響、妊娠期、分娩期、授乳期における薬物の影響、性ホルモン剤、経口避妊薬など									
9		緊急応急処置時に用いる治療薬と管理	緊急時に用いられる薬剤と管理、輸液、循環改善の薬剤、ステロイド剤など		遠藤 (和)							
10		服薬管理等への援助	セルフモニタリング、生活調整、回復力の促進のための服薬指導									
11		セルフモニタリング、生活調整、回復力の促進のための服薬指導	加齢による生体機能変化、高齢者の薬物感受性変化、高齢者に対する薬物治療上の注意点	蓬田								
12		まとめ	薬害・誤薬、新薬など今日的な課題									
教科書 参考図書		講義中に提示する。										
履修上の注意		薬理学の基本的な知識について習得していること。 受講者の予備知識の程度により講義内容を変更する場合がある。 開講日時は受講生と協議して決定する。										
学生へのメッセージ		教員側からの一方的な講義ではなく、受講生の皆さんがあなたの臨床現場で疑問に感じたことや問題となっている事項について討論できることを望みます。										
e-mail・研究室 (連絡先)		蓬田伸一：研究室 16 syomogida@yachts.ac.jp 遠藤和子：研究室 13 kaendo@yachts.ac.jp										

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生
看護学研究法特論 (専門支持科目)	教授・遠藤 和子 教授・桂 昌子 准教授・半田 直子	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	可
授業概要	看護実践の質の向上や援助方法の開発に必要な研究について、研究プロセス、研究倫理、主要な研究方法とその概要の理解を深めること、既存の文献を批判的に分析(吟味)することを通して、実践の場において看護研究を遂行し、研究の成果を活用する能力を習得する。						
一般目標	1. 看護研究の概要、科学的アプローチについて理解する 2. 看護研究のプロセスと倫理について理解する 3. 看護研究に用いられる基本的な研究アプローチについて理解する 4. 文献を批判的に分析する意義と方法について理解する 5. 実践のエビデンスと研究の活用とについて理解する						
到達目標	1. 看護研究の意義と目的、論理的思考(具体→抽象)について説明できる 2. 科学として、看護実践から看護の理論、哲学・知を産出することの意義について説明できる 3. 看護現象を研究する上での倫理的な問題について知り、看護の専門家としての対応について考えることができる 4. 主要な研究アプローチ方法について知り、それぞれの特徴と主要な用語について説明できる 5. 研究デザインについて説明できる 6. 研究枠組み、理論・概念枠組みと仮説について説明できる 7. 自己のテーマに関連した研究論文の主旨と構造を読みとり説明できる 8. 文献を批判的に分析、吟味できる 9. 自己のテーマに関連した研究と実践の連関を説明できる						
成績評価方針 評価方法 および基準	方針：積極的参加による講義内容の理解を重視する 方法：課題レポートは講義の中で提示する 基準：課題の達成度 50%、討議への参加度 50%						
授業形式	対面もしくは遠隔授業(状況により受講生とも相談の上、決定します)						
授業計画							
回	日付	授業項目	学習内容	授業外学習など	担当		
1	5.4.10(月)6 第8講義室	ガイダンス 看護研究の意義・目的 科学的アプローチとは	授業の進め方 討議：看護研究が科学であるにはどうある必要か	既存の文献などを用いて根拠を示す	遠藤和		
2	5.4.17(月)6 第8講義室	看護理論 哲学・知を産出することの意義	討議：「看護の知」を産出することの今日的意義について	「臨床の知」「実践知」を扱った本を読み根拠に用いる	遠藤和		
3	5.4.24(月)6 第8講義室	研究のプロセスと倫理的問題	討議2：看護学領域の研究のプロセスに付随した倫理的問題を報告し、対応について議論する	倫理的問題の解決に当たる根拠を示す	遠藤和		
4	5.5.1(月)6 第8講義室	質的研究1 研究方法の選択 用語	質的な研究の発展の歴史と種類、哲学的基盤、研究デザイン 面接調査とインタビュー、記述データ	自己の研究課題についてまとめてくる	遠藤和		
5	5.5.8(月)6 第8講義室	質的研究2 研究のプロセス	講義：質的研究手法に応じ、看護実践に関する文献や既存のデータを用いた演習を交えて解説する		遠藤和		
6	5.5.15(月)6 第8講義室	質的研究3 事例研究	講義：事例検討と事例研究 討議：事例研究のステップについて、看護実践に基づく知見を示す研究論文を読み、デザインと論文の構造を読み取り報告した上で比較検討する	提示された論文を読み込み、報告用レジメを作成する	遠藤和		
7	5.5.22(月)6 第8講義室	質的研究4 事例研究					
8	5.5.29(月)6 第8講義室	量的研究1 研究デザイン	講義：量的なアプローチの研究デザイン、非実験的(観察的)研究質問紙調査を中心に、看護実践の場に還元できる研究的視点や研究活動について、具体的な研究の知見や既存のデータを用いた演習を交えて解説する	事前に提示された論文に対して報告用資料を作成し、講義中に発表する準備をする	桂		
9	5.6.5(月)6 第8講義室	量的研究2 研究枠組み、概念枠組みと仮説			桂		
10	5.6.12(月)6 第8講義室	量的研究3 解析法の整理			桂		

11	5. 6. 19(月)6 第8講義室	実験研究1 研究デザイン	講義：実験研究と看護、研究デザイン、実験研究の長所と短所、生体機能の測定方法・測定機器、実験研究の倫理等について解説する	事前に提示された論文や資料を読み、議論の準備をする	半田
12	5. 6. 26(月)6 第8講義室	実験研究2 実験研究のプロセス	講義：実験研究の論文を読み議論する 演習：実験機器を使用して実験を行いながら解説する		半田
13	5. 7. 3(月)6 第8講義室	実験研究3 実験研究のプロセス			半田
14	5. 7. 29 (土) 3-4	トランスレーショナル リサーチ	講義：褥瘡に関して細胞・動物を使った基礎研究を踏まえた臨床での介入研究	報告レジメ作成	スポット (仲上) 遠藤和
教科書 参考図書		1. バーンズ&グローブ, 黒田裕子他翻訳：看護研究入門—実施・評価・活用, エルゼア・ジャパン株式会社, 2007. 2. D. F. Polit & C. T. Beck著、近藤潤子監訳： 看護研究 原理と方法 第2版, 医学書院 2010 3. 黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step by step 第5版, 医学書院, 2017. 4. 高木廣文、林邦彦：エビデンスのための看護研究の読み方・進め方, 中山書店, 2006. 5. 操華子他訳：研究デザイン－質的・量的・そしてミックス法－, 日本看護協会出版会, 2007. 6. 牧本清子編：エビデンスに基づく看護実践のための システィマティックレビュー, 日本看護協会出版会, 2013. 7. 山川みやえ他編：よく解る看護研究論文のクリティーク, 日本看護協会出版会, 2014. その他、適宜提示する。			
履修上の注意		プレゼンテーションする文献は1週間前までに教員と学生に配布すること。			
学生へのメッセージ		授業はテーマに沿った解説と討議で構成します。毎回、30分程度の講義と問題提起、その後に討議とします。討議は、根拠を示すものとし、事前学習を必要とします。			
e-mail・研究室 (連絡先)		遠藤和子：研究室13 kaendo@yachts.ac.jp			

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生	
看護学理論特論 (専門支持科目)	教授・遠藤 和子 教授・桂 晶子 教授・安保 寛明 准教授・鈴木 育子 准教授・菊地 圭子	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	可	
授業概要	看護理論の発展経緯および高度な看護実践を行うための根幹となる理論を理解し、主要な理論の知見を具体的な看護実践に活用していくことを学ぶ。							
一般目標	1. 看護理論の歴史的発展過程と看護理論の現状について学ぶ。 2. 主な看護理論の概要を理解し、看護実践における活用の有用性と限界を学ぶ。 3. 高度な看護実践に必要となる主な中範囲理論を学ぶ。							
到達目標	1. 理論開発の歴史と意義、方法について説明できる。 2. 高度な看護実践に必要となる主な中範囲理論、実践理論の概要・実践での活用法について説明できる。 3. 有用な理論の理解を深め、看護実践の向上へつなげることができる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	ディスカッションへの参加状況 (20%)、プレゼンテーション (60%)、レポート授業態度 (20%)							
授業形式	対面もしくは遠隔授業（状況により受講生とも相談の上、決定します）							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当			
1	5.4.13(木)7 第8講義室	看護理論とは何か、	看護理論とは何か、看護理論の前提・意義	授業の際に指示する	遠藤(和)			
2	5.4.20(木)7 第8講義室	看護理論の歴史的発展	米国における看護理論の開発 看護理論の歴史的発展と現状	プレゼンテーション準備	菊地			
3	5.4.27(木)7 第8講義室	看護実践・理論・研究の関連性	看護実践と理論・研究の関連性	自己の関心のある看護理論家の著作を読んでくる	遠藤(和)			
4	5.5.11(木)7 第8講義室	看護専門職と看護理論	専門職における看護理論の活用の必要性とその限界		遠藤(和)			
5 6	5.5.18(木)7 5.5.25(木)7 第8講義室	代表的な理論と看護実践における理論の活用 (事例展開)	看護の基本に関する理論と看護実践への活用 ニード論、ケアリング	プレゼンテーション準備	菊地			
7 8	5.6.1(木)7 5.6.8(木)7 第8講義室		看護実践に関する理論と看護実践への活用 危機理論、適応理論、セルフケア理論 病みの軌跡	理論を活用し自己の実践事例を分析してくる	遠藤(和)			
9 10	5.6.15(木)7 5.6.22(木)7 第8講義室		人間の心理に関する理論と看護実践への活用 不安理論、悲嘆理論、ストレス・コーピング理論、レジリエンス理論、自己効力感	第9回に第10回のプレゼンテーション課題を告知する	安保			
11 12	5.6.29(木)7 5.7.6(木)7 第8講義室		家族に関する理論と看護実践への活用 家族論、家族発達理論、家族システム論	プレゼンテーション準備	鈴木			
13 14	5.7.13(木)7 5.7.20(木)7 第8講義室		健康に関する理論と看護実践への活用 ヘルスビリーフモデル（保健信念モデル） 保健行動理論	理論を活用し自己の実践事例を分析してくる	桂			
15	5.7.27(木)7 第8講義室		上記での学びを基に各自、自己の専門的職務において看護理論の看護実践へ具体的な活用について討議する。		遠藤(和)			
教科書 参考図書	参考書：授業中に提示する							
履修上の注意	既習の理論を復習して授業に臨んでください。							
学生へのメッセージ	看護に関連する理論を自己の活動事例や活動そのものに関連付けて、どのように応用・統合し活用していくか考えてください。							
e-mail・研究室 (連絡先)	遠藤：研究室13 kaendo@yachts.ac.jp 桂：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 安保：研究室15 hambo@yachts.ac.jp 鈴木：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp 菊地：研究室5 kkikuchi@yachts.ac.jp							

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生					
看護政策論 (専門支持科目)	教授・菅原 京子	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	可					
授業概要	今日、政策提言のできる看護職が求められている。しかし、政策形成は段階ごとに順を追っては進行せず、また、ステークホルダー(利害関係者)の存在もあり、看護実践における対象者支援の思考とは異なる「政策型思考」を身につける必要がある。本科目では、今日の保健医療福祉政策における看護職の立ち位置を理解し、社会の変化に対応して看護に関する新たな政策提言ができる基礎的能力を育成する。											
一般目標	1. 立法政策を理解する基礎的知識を身につける。 2. 今日の保健医療福祉政策の動向(地域包括ケア、医療法・診療報酬制度と看護師の人員配置、看護職の資格制度、看護職の人材確保、チーム医療と特定行為)について理解し、多くのパワーが絡み合うなかで看護職が政策決定過程に参画する方法を説明できる。 3. 看護実践経験と看護政策との関連を批判的思考に基づいて考察する。 4. 看護専門職として看護政策に積極的に関与する態度を身につける。											
到達目標	1-1. 政策と制度と法律の関係について説明できる。 1-2. 法令の読み方を理解できる。 1-3. 立法政策過程における用語及び代表的理論について説明できる。 2-1. 地域包括ケアについて医療機能の分化と連携、在宅医療推進の関係性から説明できる。 2-2. 看護師の人員配置について診療報酬制度と医療法の観点から説明できる。 2-3. 看護職の資格制度について欧米諸国との比較から説明できる。 2-4. 看護職の人材確保について看護教育の大学化の観点及び各都道府県の取組の観点から説明できる。 2-5. 特定行為研修についてチーム医療との関係から説明できる。 上記の2-1～5：アジェンダは何か、何故アジェンダとなったのか/ならないのか、ステークホルダーは誰か、アクターは誰かを意識した検討ができる。 3. 看護実践経験を通して、看護政策課題のアジェンダを1つ設定し、解決に向けた方策を検討できる。 4. 以上を通して、看護政策の展開における看護専門職の役割について考察できる。											
成績評価針 評価方法 および基準	・レポート(30%)：看護政策論の学びについて、到達目標4を中心記述してください。 ・発表資料(30%)：到達目標3の発表内容を評価対象とします。 ・討論への参加(40%)：討議の場面で、自分の意見を述べることができているか、他者の意見を踏まえて発展的に思考できているか、を判断基準とします。											
授業形式	原則として対面授業											
授業計画												
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・ 学習方法	授業外学習 など	担当					
1	毎週 水曜日 7限目	1-1. オリエンテーション、政策と制度と法律の関係			講義	文献に基づく討議資料の作成 13・14回目の授業に向けた準備	菅原					
2		1-2. 法令の読み方：保健師助産師看護師法を事例として										
3		1-3. 立法政策過程：アジェンダ、ステークホルダー、アクター、政策の窓モデル			講義・討論 アジェンダは何か。何故アジェンダとなったのか/ならないのか。ステークホルダーは誰か。アクターは誰か。							
4		2-1. 地域包括ケア：医療機能の分化と連携、在宅医療推進										
5		2-2. 看護師の人員配置：医療法と診療報酬制度										
6		2-3. 看護職の資格制度：日本と欧米諸国の状況 日本の特徴										
7		2-4. 看護職の人材確保：看護師等の人材確保の促進に関する法律と看護教育の大学化、各都道府県の人材確保の取組										
8		2-5. 特定行為研修：看護教育におけるチーム医療と厚生労働省のチーム医療の異同、特定行為研修の意義と課題										
9		3. 看護実践経験を通して看護政策課題のアジェンダを1つ設定し、解決に向けた方策を検討する			発表・討論							
10		4.まとめ：看護政策の展開における看護専門職の役割										

教 科 書 参 考 図 書	<p>参考図書：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平林勝政ほか編：ナーシング・グラフィカ 看護をめぐる法と制度、メディカ出版、2022 ・田村やよひ：私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法、日本看護協会出版会、2015 ・キングダン著・笠京子訳：アジェンダ・選択肢・公共政策－政策はどのように決まるのか、勁草書房、2017 ・新たな看護のあり方に関する検討会報告書、日本看護協会出版会、2004 ・国民衛生の動向、厚生統計協会 ・看護白書、日本看護協会出版会
履 修 上 の 注意	特になし
学 生 へ の メ ツ セ ー ジ	看護の質の向上における政策の重要性を理解し、看護政策に積極的に関与しようとする態度を期待します。検討にあたっては、クリティカルシンキング（批判的思考）が重要です。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	菅原京子：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生		
看護教育学 (専門支持科目)	教授・沼澤 さとみ	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	可		
授業概要	看護学教育の教育制度や教育課程の特徴と課題、看護教育を行うための教育方法の基本的知識と技能を学習するとともに、「学ぶ」意味と「教える」意味について深く考える。								
一般目標	1. 看護学教育の教育制度、教育課程の特徴と課題について理解する。 2. 看護教育を行うための教育方法の基本的知識と技能を理解する。 3. 教師に必要な資質能力と看護教育における教員の役割について理解する。 4. 看護教育の課題に関する自分の考えを考察する。								
到達目標	1. 看護教育制度の変遷や看護教育を規定する法規から、看護教育制度の特徴を説明できる。 2. 看護学教育の教育課程と保健師助産師看護師学校養成所指定規則との関係を理解し、教育課程の編成方法について説明できる。 3. 看護教育を行うための教育方法の基本的知識と技能を説明できる。 4. 教師に必要な資質能力と看護教育における教員の役割について理解する。 5. 看護継続教育についてキャリアの概念と関連させて説明できる。 6. 看護教育の課題に関する自分の考えを考察できる。								
成績評価方針 評価方法 および基準	ワーク・ディスカッションなど授業への参加状況 (40%) レポート (60%)								
授業形式	対面授業（一部を遠隔授業にすることもあります）								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当				
1	集中講義 (後日連絡)	オリエンテーション 教育とは	教育の意義 「学ぶこと」と「教えること」 (講義とディスカッション)	各授業回の学習課題に応じて、以下の学習をしてください。 - 学習課題に関して紹介する、あるいは学生自身で探した文献や図書を読み、重要事項等をまとめること。 - 学習課題についてプレゼンテーションやディスカッションするための資料を作成する。 - 学習成果としてのレポートを作成する。	沼澤				
2		看護学教育と法規 看護教育制度	看護教育学の定義 看護教育を規定する法規 教育制度の変遷 (講義とディスカッション)						
3		看護教育課程	保健師助産師看護師学校養成所指定規則 教育課程の編成と評価 資質・能力の育成 (講義とディスカッション)						
4		継続教育とキャリア	キャリアに関する諸概念 高度実践看護師の教育制度 (講義とディスカッション)						
5		看護教育方法	教育の基本技術、学習理論 授業設計 (講義とディスカッション)						
6		看護教育の場と教員の役割	教師像と教師に必要な資質・能力 学校や臨地実習での教員・臨床における指導者の役割 専門看護師の看護職を対象とした教育 (講義とディスカッション)						
7		看護教育の現代的課題	各自の教育実践上の例を挙げて看護教育の現代的課題について考える (プレゼンテーションとディスカッション)						
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
教科書 参考図書	教科書はなし 参考図書：杉森みどり、舟島なをみ：看護教育学 第6版、医学書院。 必要時は資料を配付し、隨時文献や図書を紹介します								
履修上の注意	特になし								
学生へのメッセージ	積極的な議論を望みます。								
e-mail・研究室 (連絡先)	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp								

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生								
看護学倫理 (専門支持科目)	教授・遠藤 恵子 教授・遠藤 和子 教授・安保 寛明 准教授・鈴木 育子 非常勤・宮坂 道夫	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	可								
授業概要	看護倫理の歴史的背景と主要な理論等を習得し、看護実践で遭遇する倫理的諸問題をチーム医療の体制の中で解決するための具体的な方法論を習得する。看護実践上の倫理的問題事例を取り上げ、事例に応じた最適な方法論を活用し、倫理的意思決定アプローチについて学修する。また、看護の実践者、教育者、研究者としての責任と役割について考究する。														
一般目標	看護倫理の歴史的背景と主要な理論を理解する。 看護実践で遭遇する倫理的諸問題をチーム医療の体制の中で解決するための計画を立案する。														
到達目標	1. 看護倫理の歴史的背景と主要な理論について説明できる。 2. 倫理的問題分析の方法論について類別できる。 3. 看護各領域の実践において生じる倫理的諸問題を分析し、解決するための計画を立案できる。 4. 看護の実践者、教育者、研究者としての責任と役割について説明できる。														
成績評価方針 評価方法 および基準	1. 講義の中で、看護倫理の歴史的背景と現状の問題・課題についての討議を行い、模擬事例に対して倫理的問題分析の方法論を適用する。その中で受講者の理解度を評価する。(30点) 2. 講義の中で、看護各領域の事例を題材に倫理的問題の分析を行い、その中で、倫理的問題を分析し、解決するための計画をどの程度具体的に示せるかを評価する。(35点) 3. 講義の中で、看護の実践者、教育者、研究者としての責任と役割についての討議を行い、その中で受講者の理解度を評価する。(35点)														
授業形式	対面授業またはzoomを用いた遠隔授業														
授業計画															
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など	担当									
1	5. 5.11 (木) 1	看護倫理の歴史の理解	看護倫理の歴史（講義と討議）		第1-4回：テキストの該当ページを読んで講義に臨むこと。	宮坂									
2	5. 5.11 (木) 2	看護倫理の主要な理論の理解	基本的概念と構造（講義と討議）												
3	5. 5.11 (木) 3	倫理的問題分析の方法論の類別	倫理原則、四分割法（講義と討議）												
4	5. 5.11 (木) 4		ナラティヴ・アプローチ、倫理調整（講義と討議）												
5 6	5. 5.18 (木) 5-6	臨床現場における倫理的ジレンマ（事例検討）	成人看護領域：インフォームドコンセント、治療における代理行為、延命（講義）		第5-11回：個別の指示に従うこと。	遠藤(和)									
7 8	5. 5.25 (木) 5-6		母性・小児看護領域：生殖医療、性自認と性指向、障がい児と人権（講義）												
9 10	5. 6.22 (木) 6 5. 6.29 (木) 6	在宅における倫理的ジレンマ（事例検討）	在宅看護領域：看護師と介護職および看護師と家族間に生じやすい倫理的課題（講義と討議）		第12-15回：各自で経験した事例について報告すること（必ず個人情報を削除すること）	鈴木									
11	5. 7.20 (木) 5	臨床現場における倫理的ジレンマ（事例検討）	精神看護領域：自傷・他害行為の防止と隔離・拘束（講義）												
12 13	5. 7.28 (金) 1-2	倫理的問題の分析、解決するための計画の立案	倫理問題分析の方法論の適用による、各自で経験した事例の分析、解決のための計画の立案（発表と討議）												
14 15	5. 7.28 (金) 3-4	学習の統合	看護の実践者、教育者、研究者としての責任と役割について、倫理的課題への対処方法、看護スタッフの対処能力向上への支援、組織的取り組み、倫理調整などを焦点とした討議（講義と討議）												
教科書 参考図書	医療倫理学の方法 原則、ナラティヴ、手順（第3版、医学書院）														
履修上の注意	自分が経験した事例を振り返って整理しておくと、よい学習につながります。														
学生へのメッセージ	看護倫理は難しいイメージがありますが、具体的なアプローチ方法を身につければ、チームの中での倫理調整も十分行えるようになります。実践的なディスカッションをいたしましょう。 日付欄に（※）の表記がある講義は、受講生から担当教員に連絡を取り、日程を調整してください。														
e-mail・研究室 (連絡先)	宮坂：miyasaka@clg.niigata-u.ac.jp 遠藤(恵)：研究室20 kendo@yachts.ac.jp 遠藤(和)：研究室13 kaendo@yachts.ac.jp 鈴木：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp 安保：研究室15 hambo@yachts.ac.jp														

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生	
コンサルテーション論 (専門支持科目)	教授・安保 寛明 非常勤講師・高橋 葉子	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	可	
授業概要	専門看護師の機能として必要なコンサルテーションに関する理論・技術を学び、文化的背景を踏まえて専門看護師としての基本的能力を習得する。							
一般目標	1. コンサルテーションの概念を学ぶ。 2. コンサルテーションのプロセスを学ぶ。 3. 臨床におけるコンサルテーションの実際および活動を学ぶ。							
到達目標	1. 看護実践におけるコンサルテーションの意義を説明できる。 2. コンサルテーションの概念および実践モデルを説明できる。 3. コンサルテーションに伴う倫理的側面を説明できる。 4. 臨床におけるコンサルテーション活動の実際を具体的に述べることができる。 5. コンサルテーション活動について、自分の考えを表現できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	授業中の参加態度・発言頻度、授業時のプレゼンテーション、課題レポートを総合して評価する。 プレゼンテーション 40% レポート 20% 小演習における参加度 40%							
授業形式	教員の講義と学生に事前に提示される課題に関連するプレゼンテーションをもとに、 学生同士あるいは教員と知見の整理のための議論を行う。原則として遠隔授業。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当			
1	毎週 木曜日 1限目	Introduction	コンサルテーションの学習意義と専門看護師の役割	教科書を読んでくること	安保			
2		コンサルテーションの概念（1）	コンサルテーションの定義・モデル歴史的背景とプロセス	参考書 2) 9章を読んでくること	安保			
3		コンサルテーションの概念（2）	コンサルテーションの実践と援助関係	演習課題、レポート課題を設定する	高橋			
4		コンサルテーションの概念（3）	コンサルテーションにおける評価個人と組織に対するコンサルテーション		高橋			
5		臨床の場でのコンサルテーションの実際（1）	コンサルテーション活動① コンサルテーションのモデルを用いた検討		高橋			
6		臨床の場でのコンサルテーションの実際（2）	コンサルテーション活動② 倫理的課題へのコンサルテーション		高橋			
7		臨床の場でのコンサルテーションの実際（3）	コンサルテーション活動③ 受講生の臨床での事例をもとに検討		高橋 安保			
8		まとめ			高橋 安保			
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
教科書 参考図書		教科書： 中村美鈴, 江川幸二監訳, 高度実践看護統合的アプローチ, へるす出版, 2017 野末聖香, 片平好重, 住吉亜矢子, 他, リエゾン精神看護-患者ケアとナース支援のために, 医歯薬出版 参考図書： 1) エドガー・H・シャイン, プロセス・コンサルテーション—援助関係を築くこと, 白桃書房 2) Ann B. Hamric, Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach, 5e, Saunders						
履修上の注意		専門看護師養成に必要な科目であることに留意して履修すること。						
学生への メッセージ		知識の獲得のみならず、実践に活かすことを想定して開講する予定である。 演習では、模擬事例を基にコンサルタントとコンサルティイに分かれてロールプレイする予定である。 また、プロセスレコードを書き起こして分析する課題を課す予定である。						
e-mail・研究室 (連絡先)		安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生			
健康政策・関係法特論 (専門支持科目)	教授・菅原京子 准教授・鈴木育子 准教授・今野浩之	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	可			
授業概要	少子高齢社会における今日の健康課題と健康政策、保健医療専門職としての健康政策への参画について、幅広くかつ深く学ぶ。									
一般目標	1. 今日の健康、公衆衛生の概念の到達点について理解する。 2. 先進諸国の医療制度の現状を踏まえた上で、日本の健康政策について考察する。 3. 保健医療専門職として健康政策過程に積極的に参画する態度を身に付ける。									
到達目標	1-1. 今日の健康の概念の到達点について、WHO専門委員会の観点から説明できる。 1-2. 現代公衆衛生の思想的基盤について理解し、今後の公衆衛生の展望を説明できる。 2-1. 諸外国の保健医療の状況に関する情報収集の方法を理解し、今日的話題を述べることができる。 2-2. 少子高齢社会における今日の健康課題と健康政策について説明できる。 生活習慣病と健康増進対策、感染症対策、疾病対策、医療提供体制と医療保険制度、介護保険制度 3. 上記の健康政策の展開における保健医療専門職の役割について考察できる。									
成績評価方針 評価方法 および基準	・プレゼンテーション作成資料(40%)：作成資料が到達目標2-1と2-2に関して達成しているかを判断基準とします。資料作成の分担等については、授業のなかで指示します。 ・意見交換への参加(60%)：討議の場面で、自分の意見を述べることができているか、他者の意見を踏まえて発展的に思考できているか、を判断基準とします。									
授業形式	原則として対面授業									
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・ 学習方法	授業外学習 など	担当			
1	集中講義 (後日連絡)	1. オリエンテーション(法律・通知の読み方) 2. 健康・公衆衛生(1) WHO専門委員会			講義	菅原 今野	菅原 今野			
2		3. 健康・公衆衛生(2) 思想的基盤			講義と討論					
3		4. 諸外国の保健医療の状況、今日の話題								
4		5. 少子高齢社会における今日の健康課題と健康政策(1) ①健康課題：育児、がん、生活習慣病を少子高齢社会、貧困、孤立の観点から分析する ②生活習慣病と健康増進対策、感染症対策、疾病対策、医療提供体制と保健医療活動								
5		6. 少子高齢社会における今日の健康課題と健康政策(2) ①健康課題：介護を少子高齢社会、貧困、孤立の観点から分析する ②日本の医療保険制度、介護保険制度と保健医療活動				鈴木				
6		7. まとめ			講義と討論					
7										
8					菅原 今野	菅原 今野				
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
教科書 参考図書		参考図書： 多田羅浩三：現代公衆衛生の思想的基盤（日本公衆衛生協会） 松本勝明・加藤智章：医療制度改革—ドイツ・フランス・イギリスの比較分析と日本への示唆（旬報社） 自治体国際化協会(CLAIR)及び日本貿易振興機構(JETRO)の発行資料 国民衛生の動向（厚生統計協会） 衛生行政大要改訂版（日本公衆衛生協会）								
履修上の注意										
学生への メッセージ		健康政策を「所与のもの」として捉えるのではなく、博士前期課程で学ぶ保健医療専門職として積極的に関与する態度を期待します。								
e-mail・研究室 (連絡先)		菅原京子：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室17 hkonno@yachts.ac.jp								

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択 の別	科目等 履修生			
原著講読特論 (専門支持科目)	准教授・梶 理和子	博士前期課程 1年	通年	2	30	選択	可			
授業概要	この授業では、英文を語順のとおりに読むこと（サイト・トランスレーションや、スラッシュ [チャンク] リーディング等と呼ばれる方法）で、英文の構造を理解しながらスピーディに内容を把握する力を身につけるために、Very Short Introductions シリーズの1冊を題材に読解・解釈をおこないます。									
一般目標	英文を正確に理解するための有効な検索方法を習得する。英文の表現や内容に対する自分の解釈を他の学生に説明したり、意見交換したりすることで、論文／研究に対する理解を深める。									
到達目標	1. 複数の（異なる出版社の／語彙の豊富な／Web 上の）辞書を引き、適切な意味を選択する。 2. 英文の構造を理解し、正確に発音しながら素早く読みくだす。 3. 一文にとらわれずに、前後の文脈から意味・内容を理解する。 4. 段落やセクション、章単位の主旨を端的に説明できる。 5. 研究内容や最新の動向等について検索、情報収集を実践する。									
成績評価方針 評価方法 および基準	演習（英文読解・解釈・ディスカッション）[演習態度および minute paper (quiz 含む) によって評価] (70) 総合読解 (30)									
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）									
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当					
1	隔週木曜日 6限目 (予定) 日程変更可能	授業概要の説明	スケジュール等の計画	シラバス確認 教科書・辞書等準備	梶	新しい Chapter 等に入る際には、そこで述べられている内容の概要説明ができるように準備する。 全体像をある程度押さえてから、英文・内容の詳細を確認する。その際に、自分なりの問題意識を持つて読解し、曖昧な箇所に対しても、何らかの解釈をしておく。 読解時に生じた疑問にかかる思想（歴史的・哲学的・社会文化的・政治的背景等）や、関心のある問題の研究動向を確認し、研究の対象や視点を広げる。そのうえで、新たな観点から再読し、考察を深める。				
2		内容理解・解釈ほか	Introduction (pp. 1-6) 確認							
3		内容理解・解釈ほか(1)	Chapter 1 (pp. 7-23) Natural bodies or social bodies?							
4		英文読解 (2)								
5		内容理解・解釈ほか(1)	Chapter 2 (pp. 24-41) Sexed bodies							
6		英文読解 (2)								
7		内容理解・解釈ほか(1)	Chapter 3 (pp. 42-59) Educating bodies							
8		英文読解 (2)								
9		内容理解・解釈ほか(1)	Chapter 4 (pp. 60-79) Governing bodies							
10		英文読解 (2)								
11		内容理解・解釈ほか(1)	Chapter 5 (pp. 80-96) Bodies as commodities							
12		英文読解 (2)								
13		内容理解・解釈ほか(1)	Chapter 6 (pp. 97-108) Bodies matter							
14		英文読解 (2)								
15		総合読解	理解度確認テスト							
教科書 参考図書	Chris Shilling, <u>The Body: A Very Short Introduction</u> , Oxford UP, 2016.									
履修上の注意	専門分野の辞書等のほかに、以下の種類の辞書等が使える環境をととのえましょう。そして、辞書等を使いこなすためには【英文／内容理解のためには】、検索能力を上げることがポイントです。 1. 複数の英和辞書（異なる出版社の辞書・語彙の豊富な辞書） 2. Collocation [研究社 新編英和活用大辞典など] 3. Thesaurus 4. 英英辞典 5. 和英辞書・国語辞典 6. オンライン辞書ほか（インターネット検索） 7. 英文法の解説[参考]書									
学生への メッセージ										
e-mail・研究室 (連絡先)	梶 理和子：研究室 25 rkazi@yachts.ac.jp									

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生				
生体機能看護学特論 (専門支持科目)	教授・沼澤さとみ 准教授・半田 直子	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	否				
授業概要	人間は生命を維持するために、環境の変化に応じた恒常性を保つ機能をもつことを理解し、環境やケアによる健康状態の変化を考える										
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活活動による生体の変化を理解する ケアによる生体の変化とケアの効果を理解する 										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 運動による身体的変化と健康状態の変化を説明できる 食事による身体的変化と健康状態の変化を説明できる 感情による身体的変化と健康状態の変化を説明できる ケアによる身体的変化と健康状態の変化、およびケアの効果を自律神経活動の点から説明できる 										
成績評価方針 評価方法 および基準	ディスカッション・プレゼンテーションの内容と態度 (70%)、課題 (30%) で評価する										
授業形式	対面授業										
授業計画											
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当						
1~2	集中講義 (後日連絡)	・恒常性と自律神経活動	講義	学習課題について、図書や文献を読み、重要事項をまとめる	沼澤 半田						
3~5		・運動と自律神経活動	文献講読とディスカッション								
6~8		・食事と自律神経活動	文献講読とディスカッション								
9~11		・感情と自律神経活動	文献講読とディスカッション								
12~15		・ケアと自律神経活動	文献講読とディスカッション またはプレゼンテーション (実験)								
教科書 参考図書	教科書は特になし 参考図書や文献は隨時紹介し、必要に応じて資料を配付します										
履修上の注意	授業日程は調整します										
学生への メッセージ											
e-mail・研究室 (連絡先)	沼澤さとみ : 研究室 11 snumazawa@yachts.ac.jp 半田 直子 : 研究室 3 nhanda@yachts.ac.jp										

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択 の別	科目等 履修生
臨床動作解析学特論 (専門支持科目)	教授・加藤 浩 准教授・南澤忠儀	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	否
授業概要	1) 運動力学(床反力、モーメント)および筋電図の基礎を学ぶ。 2) 生体力学に関する英語の文献抄読を行う。 3) 実習を通して、三次元動作分析装置や床反力、筋電図などの機器を用いた客観的な動作分析手法を学ぶ。						
一般目標	運動学、運動力学に基づいた客観的な評価、判断の方法を獲得する。 床反力、三次元動作解析装置、筋電図等の機器を用いた研究の利点と限界を理解する。						
到達目標	1) 床反力、モーメント、筋電図の客観的な動作分析方法の意義とその限界について説明することができる。 2) 床反力、モーメント、筋電図の評価結果を適切に解釈することができる。 3) 三次元動作解析装置や筋電図などの機器を使用した基本的な測定を行うことができる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	課題レポート(80%)、課題発表(20%)で評価する。						
授業形式	対面授業(一部、遠隔授業となる場合があります)						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1 ～ 10	集中講義 (後日連絡)	臨床バイオメカニクス	歩行分析に関する文献抄読 生体力学的評価方法 生体力学的指標の計測と限界 機器を使用した計測	・運動学やバイオメカニクスの基礎知識を復習しておく。	加藤		
11 ～ 15		生体計測機器と臨床応用	計測機器を使用した基本動作の計測と分析、および臨床応用の紹介		南澤		
教科書 参考図書	・授業で使用する資料は、配布します。 ・参考図書：月城慶一、他訳：観察による歩行分析（医学書院） Jessica Rose : Human Walking (Lippincott Williams & Wilkins) 筋骨格系のキネシオロジー Neumann, D.A 著 嶋田智明監訳（医歯薬出版）						
履修上の注意	講義日程は、受講者の状況（一般・社会人）によって変更可能ですので、事前にご相談ください。						
学生への メッセージ	この授業を通して運動学、運動力学的な思考パターンを獲得して下さい。						
e-mail・研究室 (連絡先)	加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 南澤：研究室 18 tminamisawa@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生							
発達障がい理学療法学特論 (専門支持科目)	准教授・渡部 潤一	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	否							
授業概要	運動発達障がい児者に理学療法を実施する上で、理学療法介入がどのような影響を与えるのか科学的な検証を探っていくために、対象者の身体機能を中心に客観的に評価する方法論について研究する。また、運動発達障がいのある成人の身体機能の評価と成長期に必要な介入および今後老年期に対応すべき内容について考察する。													
一般目標	運動発達障がい児者の理学療法介入効果の科学的検証方法を探求する。													
到達目標	対象者の臨床像を把握しその変化を客観的に示すための方法について、現行の諸検査の特徴を理解する。成人運動発達障がい者への評価の適用と理学療法を考察できる。													
成績評価方針 評価方法 および基準	討論内容 (50%)、課題レポート (50%) により総合的に評価します。													
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）													
授業計画														
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外 学習など	担当									
1 ～ 7	集中講義 (後日連絡)	正常運動発達と運動発達障がい児者の発達特性	正常運動発達と運動発達障がい児者の発達特性を学習する	運動発達障がいに関する知識を復習してください。 渡部										
8 ～ 10		運動発達障がい児者の評価	運動発達障がい児者に対する諸検査を学習する											
11 ～ 15		成人運動発達障がい者の評価と理学療法	成人運動発達障がい者への評価の適用と理学療法を学習する											
教科書 参考図書	授業で使用する資料は、配布します 参考図書は随時紹介します													
履修上の注意	実施日程は、受講者と相談して決定します													
学生への メッセージ														
e-mail・研究室 (連絡先)	渡部潤一：研究室 39 jwatanabe@yachts.ac.jp													

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生
理学療法臨床推論特論 (専門支持科目)	非常勤講師 若山 佐一	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	可
授業概要	理学療法士はどのような思考過程を経て治療戦略を考えているのでしょうか? 情報収集では何を重視しどのような順序で進めていくのか? 臨床経験のほとんどない学生や新人理学療法士の場合はどのようにしているのか?経験者ではどうか? 理学療法と看護や作業療法、あるいは医師の診断、治療の意志決定過程とは? これらの疑問を出発点として、受講者による演習を中心に理学療法(士)の臨床推論過程、意志決定過程を文献的、体験的に分析し、研究方法、教育方法等についても論考します。						
一般目標	理学療法における臨床的推論過程や意思決定過程について、その概念や理論、研究、教育方法などについて理解する						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法学の臨床推論に関する概念、理論を理解し、臨床・教育・研究の視点から論議できる ・臨床実習指導もしくは指導された経験において、臨床推論過程の指導を分析し発表できる ・自身の臨床実践例を一例とりあげ、臨床推論過程から分析し発表できる ・関連する和洋最新文献を1編探索し、わかりやすく紹介できる 						
成績評価方針 評価方法 および基準	授業中の質疑応答(30%) 演習時の発表内容・資料・指導状況(40%)、演習内容の討論への参加状況(30%)から総合評価する。						
授業形式	対面授業(遠隔授業となる場合があります)						
授業計画(2~4回は、受講生と相談のうえ変更修正可能です)							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1	5. 5. 20 (土) 2-5 ※10:30~17:30	臨床的意思決定過程 や推論過程に関する 概念・理論、教育・ 研究方法	講義及び質疑 臨床推論に関する概念・理論、教育 や研究例の紹介、質疑を行う	・事前にメール等で配 布した資料を読んで おくこと	若山		
2	5. 7. 8 (土) 2-5 ※10:30~17:30	臨床実習指導や教育 における臨床推論過 程	臨床実習指導における推論過程の指導 もしくは指導された経験、あるいはその 教育実践について発表討論する	・臨床実習関係資料が 手元がない場合、事 前に学校等から資料 収集、分析が必要	受講生		
3	5. 8. 5 (土) 2-5 ※10:30~17:30	自験症例の臨床推論 過程	臨床における自験例の推論過程を発表 討論する。受講生のフィールド見学等も 適宜行う	・過去の症例ならば情 報収集、現症例なら ば期間を定めまとめて おく必要がある	受講生		
4	5. 9. 9 (土) 2-5 ※10:30~17:30	臨床推論に関する最 新の和洋文献の紹介	臨床推論に関する最新の英語論文、日本 語論文(適宜)の紹介質疑を行う	・文献探索、選択は早 めに行い了承を得ること	受講生 ・若山		
教科書 参考図書	教科書：特に指定なし 参考書：Editors: Joy Higgs, Gail M Jensen, Stephen Loftus, Nicole Christensen: Clinical Reasoning in the Health Professions, 4th ed, Page532, 2019 Elsevier 藤本修平、竹林崇編:PTOTST のための臨床に活かすエビデンスと意思決定の考え方、医学書院、2020 その他、授業時に提示します。						
履修上の注意	演習課題については初回授業時に提示します。 演習の発表スライドやレポート等の添削指導はメールにて実施します。下記 e-mail へ。 開講日時が変則なので開講日、時間帯などに注意してください。 5月、7月、8月、9月の各1回、土曜日を予定しています。 初回は 5/20 (土) 10:30-17:30、次回以降は相談ですが、一応下記日程を予定しています。 7/8、8/5、9/9。ただし2回目以降の実施内容は受講学生と相談のうえ決めます。						
学生への メッセージ	すでに臨床経験や臨床実習指導経験がある場合には特に支障はありませんが、学部や専門学校から臨床経験を経ないで進学し、この授業を受ける場合、経験の無さを危惧するかもしれません。しかし、これまでの受講学生の感想や意見から、学部や専門学校における臨床実習指導を受けた経験や現在の臨床実践について、臨床推論の観点から省察分析するよい機会となります。						
e-mail・研究室 (連絡先)	若山 佐一(弘前大学名誉教授) wakayama@cna.ne.jp 09026065258						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等履修生
精神障がい作業療法学特論 (専門支持科目)	講師・佐々木 学	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	可
授業概要	精神障がいを対象とした作業療法を行う場合に、参考となるような知見を紹介する。						
一般目標	幅広く考察できるような視点を持つこと。						
到達目標	治療的アプローチに新しい知見を導入できること。						
成績評価方針 評価方法 および基準	A 大学院生として発展的な意見が述べられている B 授業の内容を十分に理解している C 授業の内容を最低限理解している D 授業の内容を部分的に理解している F 授業内容を理解していない						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	集中講義 (後日連絡)	以下のテーマなどから講義が行われる 1. 統合失調症患者から相談されたときに必要な知識 2. 遺伝 3. 薬物と行動 4. 鬱に関する最近の動向 5. 運動と鬱 6. その他	講義形式である	特に指定しない	佐々木		
教科書 参考図書	特に指定しない						
履修上の注意	特になし						
学生への メッセージ	特になし						
e-mail・研究室 (連絡先)	佐々木 学: 研究室 19 msasaki@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択 の別	科目等 履修生								
身体障がい作業療法学特論 (専門支持科目)	准教授・千葉 登	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	否								
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 身体障がい領域におけるスポーツ（パラスポーツ）の発展に寄与できるような人材育成も障がい者のQOL向上に必要である。 本特論は、パラスポーツの基本的知識やそれを用いた現場での実践について教授する。 														
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> パラスポーツの総論が理解を理解し、臨床で活用できる。 														
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> パラスポーツの現状・問題点・課題について理解し、他者へ説明ができる。 														
成績評価方針 評価方法 および基準	<ul style="list-style-type: none"> 講義、グループディスカッションの参加状況により評価します。 														
授業計画															
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習 など	担当										
1	日程については履修学生と相談の上、決定します。	オリエンテーション 障がい者スポーツの歴史	障がい者スポーツがどのように発展してきたか (講義・グループディスカッション)	障がい者スポーツについてメディア等で報道されていることに関心を持ってみてください。	千葉										
2		障がい者スポーツの現状	障がい者スポーツの現状について(講義・グループディスカッション)												
3		障がい者スポーツの課題	障がい者スポーツのおかれている課題について(講義・グループディスカッション)												
4		障がい者スポーツの未来	障がい者スポーツがどのように発展していくことが必要か(講義・グループディスカッション)												
5		障がい者スポーツの実際	障がい者スポーツがどのように行われているのか、競技ごとの特性について(講義・グループディスカッション)												
6		障がい者スポーツ選手のサポート	障害別の選手のサポート方法について(講義・グループディスカッション)												
7		障がい者スポーツの理解(応用編)	ニューススポーツを考案する(講義・グループディスカッション)												
8		障がい者スポーツのまとめ	まとめ												
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
教科書 参考図	書	必要に応じてプリントを配布する。													
履修上の注意	すべてZOOMを用いた遠隔講義にて行います。														
学生への メッセージ	授業日程に関しては、履修者と相談の上決定致します。														
e-mail・研究室 (連絡先)	千葉登：研究室22 nchiba@yachts.ac.jp														

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生
高齢期 作業療法学特論 (専門支持科目)	准教授・外川 佑	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	否
授業概要	高齢期障がいを有する対象者の自動車運転関連の研究を中心に、多変量解析等を用いた臨床研究、疫学研究などの論文を読み、研究デザインやアプローチ方法を学ぶ。						
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> 高齢期障がいの特性を理解できる。 高齢期障がいを有する対象者の評価法および研究手法について理解できる。 高齢期障がいを有する対象者への臨床・疫学研究のデザインやアプローチを理解できる。 高齢期障がいを有する対象者の作業療法研究の臨床的意義を理解できる。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 高齢期障がいの特性を説明できる。 高齢期障がいを有する対象者の評価法および研究手法について説明できる。 高齢期障がいを有する対象者への臨床・疫学研究のデザインやアプローチを理解できる。 高齢期障がいを有する対象者の作業療法研究の臨床的意義を説明できる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	プレゼンテーション (50%)、討議への参加度 (50%) により評価する。						
授業形式	対面授業または遠隔授業 (受講者と相談して決定する)。						

授業計画

回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当				
1	集中講義 (後日連絡)	高齢期障がいの特性	教員は授業項目に関する最新の論文を事前に配布する。 学生は配布された論文をもとに、プレゼンテーションを行う。 論文および学生のプレゼンテーションをもとに討論を行い、高齢期障がいにおける作業療法および研究法に関する理解を深める。	事前に配布された資料をよく読み、理解してから授業に臨むこと。	外川				
2		臨床・疫学研究の研究デザイン							
3		高齢期障がいを有する対象者への臨床・疫学研究							
4		高齢期障がいを有する対象者に対する評価・アウトカム指標							
5		高齢者の自動車運転中止に関するアウトカム							
6		統計ソフト R を用いた分析の実践①							
7		統計ソフト R を用いた分析の実践②							
8		まとめ							
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
教科書 参考図書		授業の度毎に資料を配布する。 参考図書は随時紹介する。							
履修上の注意		実施日程は、受講者と相談して決定する。							
学生への メッセージ		主に英文の文献を読むことが中心になる。							
e-mail・研究室 (連絡先)		外川 佑： 研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp							

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生					
生活援助工学特論 (専門支持科目)	教 授・佐藤 寿晃 非常勤講師・鈴木 亮二	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	否					
授業概要	日常生活に援助を必要とする対象者は、中枢神経障がい、運動器障がいなど種々の原因に基づいた人々で、生後から生涯を閉じる年齢までに関係する。 本科目では、理学・作業療法や看護の実践に必要な最新の人間工学の知見と研究に関する知識を学び、対象者の日常生活援助について考える形式を展開する。また、実習形式で測定機器を用いて、福祉用具の適用について考える形式も行う。											
一般目標	様々な障がいを有する対象者に対して ・人間工学的観点から日常生活の援助について理解できる。 ・人間発達学の観点から日常生活の援助について理解できる。											
到達目標	様々な障がいを有する対象者に対して ・人間工学的観点から日常生活の援助について考えることができる。 ・人間発達学の観点から日常生活の援助について考えることができる。											
成績評価方針 評価方法 および基準	プレゼンテーション 70% (取り組み内容とその成果で評価する) ディスカッションへの参加度 30% (人間工学、発達学的観点から日常生活に関する)											
授業形式	対面または遠隔講義											
授業計画												
回	日付	授業項目・学習課題			授業外学習など		担当					
1~15	集中講義 (後日連絡)	・様々な障がいを有する対象者に対して人間工学的観点から、人間の能力にふさわしい用具・技術・環境の条件を考える。 ・自然な形態で実生活が送れるように、工学的視点からの援助を考える。 ・具体的な測定機器（ビデオカメラ、圧分布測定器、筋電計等）を用いて、福祉用具の適用について考える。			福祉用具を作成する工程を見学し、福祉用具と生活援助、福祉用具の開発過程、生活援助の実際について考える機会を設定する予定		佐藤 鈴木					
教科書 参考図書	必要に応じてプリント配布する。											
履修上の注意	福祉用具展示場、作成工場を見学し、授業内容に反映させたいと考えている。											
学生への メッセージ	看護学、理学療法学分野の大学院生の積極的な受講を希望します。											
e-mail・研究室 (連絡先)	佐藤寿晃：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp											

授業科目名 (科目区分)		担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等履修生					
地域リハビリテーション学特論 (専門支持科目)		准教授・鈴木 由美 准教授・丹野 克子	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	否					
授業概要	地域リハビリテーション学特論は、心身に障がいを持つ人々にとどまらず、健康な人のヘルスプロモーション活動にまで視点を拡げ、看護師・理学療法士・作業療法士と地域社会とのかかわりの中から専門職の役割を明らかにし、「質の高い地域生活」「地域づくり」「健康づくり」「自立の重視」「セルフマネジメントの重視」「エンパワーメントの促進」を目指すための方策を学習する。												
一般目標	1. 地域リハビリテーションの歴史的背景と思想を理解できる。 2. 地域リハビリテーションの範疇および社会的使命について説明できる。												
到達目標	1. 地域における対象（地域全体・個人）への支援計画を立案できる。 2. 地域における専門職と住民との協働について理解できる。 3. 予防の側面から、地域における包括的ケアを考察できる。												
成績評価方針 評価方法 および基準	生活障害の分析、地域ケアシステムのあり方、多職種連携のあり方を講義の中でディスカッションする。講義でのディスカッションへの参加度(20%)、問題の捉え方(20%)、理解度(20%)、レポート課題(40%)への取り組みなどを総合的に評価する。												
授業形式	対面授業を基本とする。												
授業計画													
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など	担当						
1~15	集中講義 (後日連絡)	<ul style="list-style-type: none"> ■個々の事例から生活障害を分析し、各地域における特殊性を考慮したリハビリテーションサービスの方策を検討する。 ■海外や国内（他の都道府県）の事情を捉え、今後の地域リハビリテーションシステムを考える。 ■地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーションのあり方を考える。 ■地域リハビリテーション活動に欠かせない職種間連携・多職種連携のあり方を考える。 					鈴木 丹野						
教科書 参考図書	授業内で紹介する。												
履修上の注意	特になし。												
学生へのメッセージ	広い観点から心身に障がいをもつ人々の取り巻く環境を考えてみましょう。												
e-mail・研究室 (連絡先)	鈴木：研究室30 yusuzuki@yachts.ac.jp 丹野：研究室6 ktanno@yachts.ac.jp												